

令和5年度 函館市食育計画策定推進委員会

会議概要

■ **開催日時** 令和5年11月20日（月）16時00分～17時00分

■ **開催場所** 函館市総合保健センター 2階 研修室

■ **会議内容**

議題

- (1) 第3次函館市食育推進計画の指標の現状値について
- (2) 第3次函館市食育推進計画の取組について
 - ア 令和5年度 食育推進事業の報告について
 - イ 令和6年度 食育推進事業について
- (3) その他

■ **資料**

- ・ 会議次第
- ・ 資料1：第3次函館市食育推進計画の指標の現状値および指標に係る取り組みについて
- ・ 資料2-1：令和5年度食育推進の取り組み
- ・ 資料2-2：令和4年度函館市食育計画策定推進委員会 食育関連事業取り組み事例
- ・ 資料2-3：食育推進庁内関係課 食育推進事業実施状況
- ・ 資料2-4：令和6年度 食育推進事業の取り組み（予算要求中）
- ・ 資料3：令和5年度 函館市食育計画策定推進委員会委員および事務局職員名簿
- ・ 資料4：函館市食育計画策定推進委員会設置要綱

■ **出席委員（15人）**（委員長，副委員長以外は五十音順）

池田延己委員長，木幡恵子副委員長，
東清美委員，梅田由美委員，大室文子委員，神田克実委員，
木下あやこ委員，小林博子委員，木幡恵子委員，坂本政博委員，
佐々木和子委員，佐藤強委員，澤口則子委員，中村享子委員，
中村正俊委員，山崎雄二委員

■ **報道機関**

株式会社函館新聞社

■ 事務局

(保健福祉部健康増進課)

三上敦誉課長，澤中真奈美主査，樽川恵主任技師，有賀友香主任技師

■ 会議要旨

1. 開 会

(事務局) 澤中主査

本日は，お忙しい中，また，お仕事でお疲れのところご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただ今から，令和5年度函館市食育計画策定推進委員会を開催いたします。本日，司会を担当します健康増進課の澤中です。本日の委員会でございますが，委員総数15名中15人の委員にご出席いただいております。「函館市食育計画策定推進委員会設置要綱」第6条第3項の規定により，委員会が成立しておりますことをご報告いたします。

さて，当委員会につきましては，「公開」により行いたいと思っておりますので，ご了承願います。また，委員会の内容につきましては，後日，事務局で会議録を作成し，市のホームページ上で公開してまいりたいと考えており，会議録作成のため，録音させていただいておりますことをご了承いただきますようお願いいたします。

本日の資料を机上配付させていただきました。次第の配付資料のとおりとなっておりますが，お手元に揃っておりますでしょうか。

2. 保健福祉部健康増進課長挨拶

(事務局) 澤中主査

次に，三上健康増進課長からご挨拶を申し上げます。

(事務局) 三上課長

－挨拶－

3. 議 題

(事務局) 澤中主査

それでは，これより池田委員長から議事を進めていただきたいと思います。池田委員長よろしくお願いたします。

池田委員長

皆様、お疲れ様です。それでは、早速ですが、次第にそって議事をとらせていただきます。

議題の（１）について、事務局より説明願います。

（事務局）樽川主任技師

－資料１の説明－

池田委員長

ただいま事務局に説明していただいた内容に関して、委員の皆さんからご意見・ご質問はありますか。

中学校長会の佐藤委員，朝食を毎日食べる中学生の割合が令和３年度77.7%から令和４年度75.6%と減少している状況について，何か要因は考えられますか。

佐藤委員

各学校で状況は異なりそうですが，思いのほか低いなと感じました。睡眠時間の指標と照らし合わせると，スマホを中心としたメディアに触れる時間が長くなり夜更かしをする，その結果，朝起きるのが遅くなり朝食が食べられない，という状況を想像しました。

池田委員長

小学生では目標値が87%に対して令和４年度81.8%ですが，令和３年度から見ると増加しています。大室委員はどう感じますか。

大室委員

87%という目標値については，設定に関わっていないので，高いか低いかは判断できませんが，小学校では早寝・早起き・朝ごはんの取り組みをしておりますので，その成果は出ているのかなと思います。

池田委員長

この現状について，校長会で取り上げて情報共有することはできますか。

佐藤委員

話題に取り上げることはできます。

池田委員長

ぜひお願いします。先ほど佐藤委員がお話ししていた、夜更かしが結果的に朝食の欠食につながるという見解は、当たっているのではないかと思います。

目標値については、どのように設定しましたか。

(事務局) 澤中主査

目標値の設定根拠については、手元に資料がないのですが、全国や北海道の状況を勘案し、現実的に達成を見込める数値を設定しました。

※ 委員会後、全国学力・学習状況調査（令和元年度）の全国値を整数にしたものと確認しました。

池田委員長

子どもたちがみんな朝食を食べる、というのが理想で、本当は100%を目指したいという気持ちは、皆さん持っていることと思います。校長会での情報共有をお願いします。

他に意見や質問はありますか。

神田委員

函館市PTA連合会の神田です。ネット3箇条やいじめの問題など、課題が多くある中で、食育の取り組みはできていませんでした。連合会の事務局とも、見逃していたと確認したところです。保護者間で朝食の欠食について、話題に挙がることはありますし、各校になると色々な取り組みはしています。私の関わっている南本通小学校では、年1回「お弁当の日」を設けていて、子どもと保護者が食について考えるような機会になっています。しかし、熱心な方がいる一方で多忙な方、様々な事情で難しい方がいる中では、100%が理想ではあるけれど、厳しさを感じます。ただ、そこに至らなくとも、今後保護者に呼びかける何かはやっていきたいと、連合会事務局と話し合ったところです。

木下委員

毎日朝ごはんを食べる子は習慣になっていますが、食べないことが多い子との差が極端になっているように感じています。お母様方とお話ししていて、親も子も忙しい中で、どうしたら食べてくれるだろうかと聞かれたことがあります。先ほど話題にあったように、スマホで夜更かしをしている、塾からの帰宅後に何か食べてしまう、というのが習慣になっていることも多いようです。良くない習慣を変えることと合わせて、例えば「朝ごはんのトーストにのりとチーズをのせると、簡単にたんぱく質が摂れる」

など、取り入れやすい簡単な提案ができれば、良い習慣も身についていくのではないかと思います。

木幡副委員長

栄養士の立場から見ても、木下委員のお話はそのとおりだなと感じました。食べる時間が夜遅くなると、朝起きた時にお腹が空きにくいです。空腹時間が少しでも長い方が朝ごはんは食べやすいと思いますので、何時に夕食を食べるかが大事になってくると考えています。

山崎委員

実は、私はあまり朝ごはんを食べられない方なのですが、早く起きて時間を置くと、お腹が空いてくるということがあります。落ち着いて食べる時間を確保するためにも、やはり早く起きる習慣も大切だと思います。

池田委員長

まさに「早寝・早起き・朝ごはん」ですね。

他に意見・質問ございますか。

それでは次の議事に進みます。議題の（２）について、事務局より説明願います。

（事務局）有賀主任技師

－資料２－１，２－２，２－３の説明－

（事務局）澤中主査

－資料２－４の説明－

池田委員長

事務局の方から、この委員会を食育推進のPDCAサイクルの核にしたいということ、また、この委員会で産学官連携が出来ないかというお話がありました。それについて、各委員からご意見伺いたいと思いますが、まず市で連携を考えられる事業はありますか。

（事務局）澤中主査

ただいま「ウェルネスフェスはこだて」のチラシを配布いたしました。はこだて市民健幸大学のイベントで、令和４年度には、減塩をテーマに木幡副委員長にご協力頂き、栄養士会、函館短期大学と連携し、手軽に塩分を減らすコツについて講話や試食体験を実施しました。また、ヘルスメイトさんと連携し、野菜の計量体験や野菜料理の試食という事業を実施

しました。次年度も、同じような大型イベントを開催する予定となっておりますので、この人の集客が見込める会場のブースを活用するなど、皆様と連携し、食育の周知啓発の事業が出来ればと考えます。

池田委員長

函館市亀田農業協同組合の山崎委員、10月のグリーン大収穫祭では、レシピの普及にご協力いただいたということですが、他に何か考えられるものはありますか。

山崎委員

私たちが何かするならば、地消地産がテーマになってきます。地元の食材を食べてほしいと思っていますので、お子様に料理に興味を持ってもらい、親御さんが忙しいというのもありますし、将来独立したときのことを考えても、体験してもらいたいです。そういう中で、私たちから野菜を提供して、地元野菜を食べていただきたいです。

池田委員長

木幡副委員長は栄養士会の支部長であり、函館短大で教鞭をとっていますが、連携できることはありますか。

木幡副委員長

栄養士会という立場ですと、地域で栄養面からの健康で長生きするための啓発活動を行っていますし、函館短大の学生は、ボランティアの立場だとしても食の知識を持った上で活動をしています。保育学科もありますので、食物栄養学科に限らず関わられるかもしれません。

先ほど三上課長の挨拶にありましたが、食の意識を変えなきゃいけないという話は、テーマにしてもいいくらいだと感じました。この委員会の皆さんはそれぞれの分野のプロでもありますから、全員が関わられるようなイベントを一つ企画してもいいのではと思います。それから、私が個人的に興味のあるのは、若い時からの食習慣は大切なので、子どもたちには自分の食事がどう見えているかということです。子どもは正直ですから、食事風景を描いてもらおうと、良い・悪いということではなく、色んな状況が見られるのかなと思います。せっかくプロ集団ですので、事務局の話聞きながら、この委員会の皆さんで来年度何かできればと感じました。

池田委員長

ヘルスメイトさんには先日、うちの学校で講話や実習をしてもらったところですが、澤口委員はどう感じますか。

澤口委員

木幡副委員長のお話を聞いて、皆さんプロですから、個々にできることをして関わっていくというやり方も確かにできるのだなと感じました。私たちも、自分たちだけで独自事業をやるのは難しいので、市や実行委員会と連携して料理教室の広報や参加者募集をさせてもらいました。人を集めるのが大変でしたので、助かっています。これからも利用できるのであれば、協力し合って事業ができればと思っています。当協議会では、小さいお子さんから高齢者までを対象にして、世代別の事業というものも行っていきますので、協力できることがあればぜひお願いしたいです。

池田委員長

子育て支援ネットワークの小林委員はどうでしょうか。

小林委員

私も函館短大におりますので、木幡先生とはよく打ち合わせをしますが、なかなか実現できないことも多く模索しております。子育て支援ネットワークはメンバーの高齢化があり、以前のように思うとおりの活動ができにくいという話が出ていました。その中で、私がこの委員会に出席するという話をしましたら、機会があれば参加できる事業もあるのではないかという声が上がりました。若い世代への食育実践事業や“ベジプラ！楽うまレシピ”の事業は、子どものころから関わるようなものがあるようですし、協力し合えることがあるかもしれません。また、学生の食事の偏りを感じておりますので、学生が参加できるものもあるといいなと思います。

池田委員長

ありがとうございます。他に意見などございますか。

東委員

北海道歯科衛生士会函館支部の東です。歯科衛生士会も会員の高齢化で、独自の事業が難しくなっています。連携して行うものであれば、木幡副委員長にはお話ししたことがあります。オホーツク地区で、栄養士会と一緒に「カムカム弁当」というものを作りスーパーで販売した事例がありますので、そのようなことができないか模索しています。せっかくこのような委員会がありますので、ここで意見を出し合いながら、皆さんと一緒に何かできればと思っています。

池田委員長

ありがとうございます。引き続き色々な意見を出していただき、ヒントになるようなものがあればいいなと思っています。

栄養教育研究会の梅田委員は、何か意見などはありますか。

梅田委員

栄養教諭として、子どもたちの食べている様子を近くで見っていますが、実は野菜を残すことが多いです。先ほどお話のあった“ベジプラ！楽うまレシピ”を活用したこともあります。野菜はなかなか食べられず、学校では無理やり食べさせることはしませんので声かけで促すのですが、難しい現状です。私たち栄養教諭も、食育の授業で食や野菜の大切さを伝えていますが、難しさを感じています。

木幡副委員長

先日参加した講演会で、スープの調理のデモンストレーションがあり、家で作ってみました。コンソメスープのようでおいしかったのですが、材料は野菜だけで、たんぱく源は入りません。来年度に向けたアイディアの一つとして、これを応用し函館の食材を使ったスープにしてはどうでしょうか。「函館の味」になりますし、学校給食ではアレルギー対応が必要ないのではと思います。離乳食にも使えそうです。この委員会のメンバーで連携すれば、いいものができるのではないのでしょうか。

木下委員

なかなか野菜を食べてくれないというお話は、よく相談されることがあります。子どもは体を動かして自分で携わると、食べてくれることがありますので、自分で野菜をすりおろして作るスープもいいかもしれません。包丁を使わないですし、ミキサーやバーミックスのような器具を使わず、おろし金でできます。季節の食材を取り入れられますし、すりおろし野菜はドレッシングに使うこともできます。

池田委員長

野菜を使ったスープコンクールというのもいいかもしれないですね。

木幡副委員長

レシピを提案する際に、電子レンジがある家庭は多いので、レシピに出てきても差し支えないのですが、ミキサーは登場させないようにしています。例えば、かぼちゃであればつぶして作ることができます。誰でも作れるのは大切ですし、地元のものを使えたらもっといいですね。

木下委員

成功体験という点も、苦手食材の克服に良いと思います。

池田委員長

木下委員は料理教室を主宰されているということで、色々なアイデアを出していただきました。今日は和気あいあいと、たくさん意見が出ました。

次に議題（3）その他について、委員の皆さんから何かございますか。

4. 閉会

池田委員長

それでは、これをもちまして、令和5年度函館市食育計画策定推進委員会を終了いたします。お忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。